



保井 志之 D.C



下から診るのか、上から診るのか①

カイロプラクティックの哲學的議論の中で、「下から診るのか、上から診るのか」というテーマがあります。カイロプラクティックのアジャストメントの主な目的は、サブラクセーションの矯正です。サブラクセーションを調整して Innate Intelligence (先天的知力) を最大限に引き出すことを目的としています。

「上」から診ようが、「下」から診ようが、どちらからでもサブラクセーションを特定してアジャストメントすれば、後は自然治癒力に任せるという考え方で、施術を進めているカイロプラクターも少なくはないと思います。また、B. J. パーマーの哲学を信奉しているカイロプラクターは、「Above Down Inside Out」(上から下へ、内から外へ) というカイロプラクターの間では有名な理論に基づいて、上部頸椎だけをアジャストメントするでしょう。

「下から診るのか、上から診るのか」というテーマに対して、3つの観点から説明する事ができます。一つ目は「バイオメカニカル」な観点、二つ目は「神経学的」な観点、三つ目はカイロプラクティックで強調されている Innate Intelligence (先天的知力) を含む「生命エネルギー」な観点です。バイオメカニカルな観点では、構造や運動の「力学」、神経学的な観点では、「機能」や「働き」、生命エネルギー的な観点では「流れ」などが説明のポイントとなります。

AMにおける検査や矯正の手順は、「下」から「上」へと進めていきます。なぜ「下」からなのか、或いはなぜ「上」からなのか、それぞれに理由があります。AMに限らず、「下から診て調整する」というテクニックの基本的な理由は、バイオメカニカルな理由が強い。そのため、「重力」との関係性が主となります。二足歩行で生活している人間が、地球上で生活している以上、「重力」に逆らうことはできません。例えば、家を建てる際には、まずは土台をしっかりと固め、骨組みを下から上へと積み上げていきます。下の土台が歪むと、上部構造にしわ寄せが生じるのは言うまでもありません。まだ生まれればかかりで歩くことができないう乳幼児や寝たきりの人、或いは無重力状態の宇宙空間であれば、「下」から見る必要性はなくなりません。しかし、ほとんどの人は、立ったり歩いたり、重力に逆らい、バランスを取りながら生活をしていきます。故に、土台となるバランスが取れていないと、上のバランスも崩れるという考え方に基づいて「下」から調整を行います。(次号に続く)